

観察会「山の学校」の記録

尾崎 煙雄

房総の山のフィールド・ミュージアム事業

房総の山のフィールド・ミュージアムは房総丘陵全域をフィールドとして、山の自然や文化そのものを“資料”や“展示物”と考える、建物のない博物館活動です。平成15年4月に発足し、平成30年で16年目を迎えました。おもな活動として、小学校の余裕教室を借りて資料収集拠点とした「三島小教室博物館」、県民の森の遊歩道での野外展示「山みち展示」、地域の在来作物をテーマとした「おばあちゃんの畑」などが挙げられます。そして、もう一つの活動の柱が観察会です。

観察会「山の学校」

房総の山のフィールド・ミュージアムでは、自然や文化をテーマとした観察会を多数開催してきました。発足から平成30年9月までの間に266回の観察会を企画し、悪天候などによる22回の中止を除くと244回を開催し、合計7,194名の参加者を集めました。

観察会は二つのカテゴリーに大別されます。一つは「昆虫」「化石」「植物」「川の流域」など特定の分野に絞った「房総の山の観察会」シリーズです。この観察会は事前申込制で、その分野に興味のある方向けの行事です。そしてもう一つが「山の学校」シリーズです。こちらは月例で開催し当日受付で気軽に参加できる、親子や初心者向けの行事です。ここでは、「山の学校」についてこれまでの記録を整理して紹介します。

山の学校を始めたのは平成16年度のことです。当初は毎月第4土曜日の月例で、年間12回開催しました。平成22年度からは第3土曜日に変更し、25年度からは4月から9月までの年間6回開催に変更して継続し、30年9月15日に通算第144回を実施しました。

山の学校の開催場所は君津市立三島小学校周辺の里地または清和県民の森です。場所や季節に応じて、「里の生きもの」「山の生きもの」「川の生きもの」といったテーマを決めて自然観察を行っています。平成24年度までは、「化石」「泥だんご」といった地学分野のテーマや、「プールの生きもの」といった企画も実施しましたが、25年度以降、これらのテーマは「房総の山の観察会」シリーズの中で開催するにしました。一方、「山の学校」は分野を絞らず、幼児や初心者でも気軽に参加できる内容に特化しています。

データでみる「山の学校」

表にこれまでの山の学校の記録をまとめました。144回企画したうち、開催したのは129回、悪天候などで中止したのは15回でした。中止率は10.4%です。この数

字は「房総丘陵で開催する野外の行事はおよそ1割の確率で中止になる」という経験則を示しています。また、テーマ別にみると、「里」や「山」に比べて「川」の回で中止率が高くなっています。川での観察の場合、前日の降雨による増水などで中止することもあるためです。

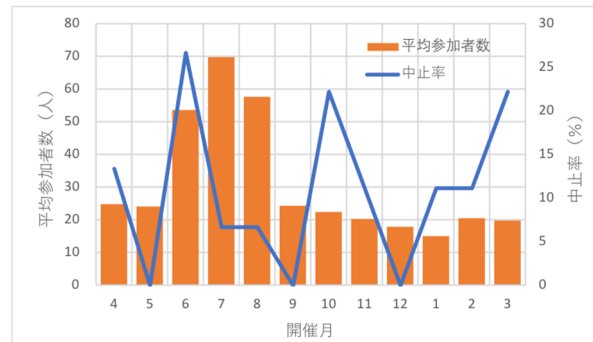
表 山の学校のテーマ別集計結果

テーマ	企画数	開催数	中止率	平均人数
里	50	46	8.0%	21.4
山	40	36	10.0%	22.7
川	50	43	14.0%	56.0
地学	3	3	0.0%	72.0
プール	1	1	0.0%	50.0
合計	144	129	10.4%	34.7

平均の参加者数（表の「平均人数」）をみると、全体としては1回当たり約35名の参加者を集めています。この程度の参加者数は、全員がじっくりと自然観察するには適当な規模です。テーマ別では「里」や「山」に比べて「川」の人気の高いことがわかります。「川」での観察の場合、渓谷に散らばって思い思いに観察する参加者の間を講師が歩き回って解説するので、多少人数が多くても参加者の満足度が高いようです。また、「地学」や「プール」をテーマとした観察会も多く参加者を集めました。これらのテーマは「房総の山の観察会」シリーズなどとして今でも人気です。

月別の平均参加者数をグラフにすると6～8月の夏季に参加者が多く、10～3月の秋、冬には少ないことがわかります。なお、このグラフは里、山、川のテーマで開催した125回分についての集計です。また、月別の中止率をみると、梅雨時の6月と台風シーズンの10月に中止が多いことがわかります。

こうしたデータを踏まえ、今後も充実した山の学校を開催していきたいと思えます。



(生態学・環境研究科)